

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	http://www.itar-tass.com/eng/level2.html?NewsID=2128607&PageNum=0	ロシア南西部Tver地域でA型肝炎に罹患した住民数が、小児142名を含む547名に達したと、明らかにした。流行感染源としての汚染ビールの役割は相変わらず議論の余地があり、この感染源から感染性のあるウイルスはまだ分離確定していない。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年6月11日	米国産のウシでBSE検査が陽性となり、さらなる追加検査が結果を確定するためにイギリスの検査室で実施される。以下、農務省USDAにより一旦BSE検査をクリアしたウシに改めてBSEの疑いがかげられたことに関して、公衆衛生上の新たなリスクにはあたらないとする記載。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年6月11日	アメリカで2例目のBSE陽性ウシが見つかった。検体は、2004年11月にテキサスで衰弱し死亡したウシから採取され、USDA検査長の要請で再検査された。2004年秋の検査でこのウシはBSEではないと思われていたが、より正確な検査を行った結果「弱陽性」となった。2つの検査結果が異なるため、検体は来週、英国のWeybridgeにある世界最高水準のBSE検査機関に送る予定である。
											A型肝炎	ProMed, 2005年6月9日	2004年8月～9月に、Hurghadaのリゾート地のあるホテルに滞在した旅行者の間で大規模なA型肝炎の流行があった。オーストリア、スウェーデン、デンマーク、オランダ、ベルギー、イギリス、イタリア、スイスから患者が報告された。感染源として、朝食のビュッフェで出されたグレープフルーツジュースが疑われた事など
											クロイツフェルト・ヤコブ病	感染症週報Vol.7 No.2 2.2(2005)	第22週コメント:6月9日集計分によれば、A型肝炎1例、ウイルス性肝炎1例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、後天性免疫不全症候群14例などが報告された
											クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.oie.int/Messages/050622AUT.htm	オーストリアで2例目のBSE症例が、2005年6月22日検査で診断された。1回目のBSE発生は2001年。問題のウシは1994年生まれて、5月26日に死亡しているのが発見され、それ以前に歩行障害を示していた。病原/感染源不明もしくは結論に到達していない。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											HIV	MMWR, Vol.54No.24, 597-601 (2005)	男性と性的関係を持つ男性(MSM)におけるHIV感染、以前に受けたHIV検査などについて評価するため、CDCがアメリカの5都市のデータの分析を行った。中間結果で調査されたMSMのうち25%がHIVに感染し、それらの48%は感染に気が付いていなかったことが示されていた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	USA Todayオンライン版 2005年6月10日	BSEの判定で矛盾した結果が出ていたウシについて、2005年6月10日、米国農務省長官が確定検査において狂牛病に対して陽性であったと発表した。検査サンプルは現在、英国Weybridgeの世界公認研究所(world recognized laboratory)において確定検査中。米国生まれでは初のBSE。1例目はカナダから輸入された乳牛。
											HIV	"HIV/AIDS Epi Updates 2005" May 2005 ed by Public Health Agency of Canada	Public Health Agency of Canadaの感染症対策予防センターのサーベイランスおよびリスク評価部門が2005年5月に「HIV/AIDSの最新疫学情報(HIV/AIDS Epi Updates)」を発行した。毎年1回編集されている、カナダにおけるHIV感染症の30%は診断されていない可能性があることなどについて記載。ウェブサイト閲覧が可能。
											HIV	Surveillance Report to March 31, 2004	カナダ政府が『カナダにおけるHIV株および第一選択薬に対する耐性』を発行。HIV-1サブタイプの分布、第一選択薬に対する耐性(1996年～2004年3月31日)について記載。ウェブサイト閲覧が可能。
											A型肝炎	ProMed, 2005年6月21日	6月21日現在555名がA型肝炎の診断で入院中。緊急事態省によれば、Tver および Smolensk地域では6月2日以来、小児187名を含む総計694名がA型肝炎の診断で入院した。
											A型肝炎	ProMed, 2005年6月22日	Tver 地域南西地区でのA型肝炎患者数が、小児182名を含む662名に達した。モスクワ市の衛生疫学局は、2005年5月までの期間に、小児164名を含む1130名が肝炎に罹患したと発表している。モスクワでは4月20日から6月14日の間に、小児16名を含む176名がA型肝炎に罹患した。成人157名と小児15名が入院した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有 区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
											A型肝炎	ProMed、2005年6月18日	ロシア南西部Tver地域におけるウイルス性A型肝炎患者数は小児177名を含む642名に増加。A型肝炎患者と接触のあった小児2000名を含む3000名以上がA型肝炎ワクチン予防接種を受けた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed、2005年6月21日	オーストリアのアルペン地方で再び狂牛病のウシが発見された。オーストリアで2例目となる。保健大臣と農業大臣が発表し、原因不明の死亡をした24ヶ月以上の牛に対する標準的安全手順であるルーチン検査により、11才の牛について確認された。感染経路は不明なことなど
											クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE disease information, Vol.18 No. 25 2005年6月24日	オーストリアにおける今回のBSE感染ウシの概要。アウトブレイクの原因/感染源は、不明もしくは結論に到達していない。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.oie.int/Messages/050628USA.htm	2005年6月27日、2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが、6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.fda.gov/cber/regsopp/84015.htm	本マニュアルの目的、背景、方針などについて記載。
											HIV	http://allafrica.com/stories/200506201190.html	この国内の取り組みは新規HIV感染症症例数を低減させる為に設立され、ボツワナ政府およびAfrican Comprehensive HIV/AIDS Partnershipにより共同提案されている。国立血液輸血サービスの顧問病理学者の報告によると、プログラムを開始後12カ月に献血血液の廃棄は15.9%から9.9%に低下した。
											HIV	USA Today, オンライン版、2005年6月15日	米国南部における女性AIDS症例数は貧困、無力感、疾病に対する認識不足および医療の受けにくさが原因で増加している。特にヒスパニック系女性で4倍、黒人女性で18倍増加し、71%が異性間性交渉を介して感染しているとCDCは言及している。記事では米国北東部、中部大西洋岸部もHIV/AIDSの「ホットスポット」であると記述していることなどが記載されている。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome?contentidonly=true&contentid=2005/06/0217.xml	かつて米国で判定が難しかったウシについて、英国の研究で陽性の判定が下され、その結果がアメリカ政府に送付された。農務省は、2つの国際的に権威ある検査により矛盾した結果が得られるという状況にあり、専門家に助言を求めている」などと述べている。
											C型肝炎	http://www.phac-aspcgc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2505_e.html	本報告ではC型肝炎感染の背景の提供、針およびシリンジに対する消毒としての漂白の使用に関する概要を記載。B型肝炎およびHIV感染予防における漂白の有効性の比較などについて記載されている。報告書はウェブサイトで閲覧できる。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年6月29日	BSE検査陽性と同定されたウシが飼育されていた個体集団(群)がDNA検査により、テキサス州内で飼育されている集団で生育し、年齢が約12才前後であったことが確認されたと、米国農務省より発表された。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年6月24日	従来狂牛病(牛海綿状脳症:BSE)ではないとされていた米国産ウシが検査でBSEであることが診断確定した。このウシは米国における2頭目のBSE患者になる。イギリスのWeybridgeにある国際BSE委託検査室においてBSE診断が確定した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年6月24日	6月17日時点でカナダ食品検査局(CFIA)は2005年度連邦および州検査室併せて32363頭のウシ検体検査を完了しており、2003年度の5500頭、2004年度の23550頭から大幅に増加している。以下、2005年1月に2頭のウシがBSE陽性と検査確定したことなどの記載。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年6月25日	2004年11月にBSE疑いで処分されたウシに関する英国の機関の検査により、その個体が米国の標準的な検査では陰性であったにもかかわらず、陽性の診断が確定したことを受けて、米国内のBSE検査システムの実質的な変更が命じられた。今回の事例診断確定までの経緯と米国で検査結果が陰性となった原因の可能性を含めた関係者のコメント。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年6月26日	2005年6月24日, 米国農務省(USDA)がイギリスWeybridge(国際BSE委託検査室である)獣医学検査室(VLA)より, 2004年11月に食用供給から外された動物検体が牛海綿状脳症(BSE)検査陽性であるとの最終検査結果を受領したことを公表。この米国2頭目のBSE感染ウシはペットフード工場で屠殺されたウシであること, ウシの生産元は不明であるが1997年以前に米国内で誕生したウシであることなどの記載。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月14日	米国において, BSE感染したウシは, 米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始した。感染源は不明もしくは結論に到達していない。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new7-1.htm	AABBドナー履歴専門調査会はFDAがまもなく血液および血液製剤のドナースクリーニングに用いるドナー履歴質問表および付随する資料の最終ガイダンスを発表する予定であると見込んでいる。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new7-1.htm	BSE感染が確定された米国のウシは「国産」で初めての症例と思われる。米国におけるBSE症例は2003年にカナダから輸入されたウシで発見された。2005年6月24日, 米国農務省長官により明らかにされ, この動物が食物連鎖に組み込まれる前に阻止されたという事実は, 防護対策は有効に働いていることを示していると述べている。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省Publications and statistics, 2005/0231, 2005年7月1日	クロイツフェルト・ヤコブ病月間統計(2005年7月1日現在): 2005年7月1日現在の2005年のCJD診断確定例および可能性例の総死亡例数-24(散发例19, 医原性1, 家族性1, GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome)1, vCJD2)
											HIV	CDRWeekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	英国静注薬物使用者のHIV有病率の動向。ロンドンにおいてHIV伝播の増加の可能性を示唆する徴候が提示された。HIV有病率は一次低減し, 安定した状態であったが, 近年では有病率が増加している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/26) 147-148 (2005)	2003年4月～2004年12月にGlasgowで197検体、Edinburghで401検体がHIV薬剤耐性検査を受けた。78%が遺伝子型耐性(ヌクレオシド逆転写酵素阻害剤(NRTI)耐性、非ヌクレオシド逆転写酵素阻害剤(NNRTI)耐性、プロテアーゼ阻害剤(P)耐性を示し、22%が耐性を示さなかった。
											HIV	http://www.phac-aspc.gc.ca/aids-sida/hiv_aids/index.html	カナダにおけるHIV/AIDSをめぐる多方面からの関与の状況が記載されています。
											A型肝炎	http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2605_e.html	2カ所のレストランの食品取扱者におけるA型肝炎陽性症例について通知を受け、A型肝炎12例が確認され、予防措置として保健当局はこのレストランの全ての従業員に予防接種を実施したことなどが記載されている。
											HIV	http://www.phac-aspc.gc.ca/publicat/hiv1-vih1-04/index.html	HIV/AIDSに関連した疫学および検査科学についての国内サーベイランスおよびリサーチを実施しているPublic Health Agency of Canadaの感染症対策予防センターのサーベイランスおよびリスク評価部門が『HIV/AIDSの最新疫学情報(HIV/AIDS Epi Updates)』を発行した。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年7月0日	ポルトガル保健監督局長は最近、検査室診断結果(扁桃生検)で判明したポルトガルにおける最初のvCJD可能性患者を報告した。12才男子であり、専門家による医学的治療を受けている。イギリスへの渡航歴は無い。ダブリンにの病院入院中の患者がvCJD感染を疑われている患者が病院入院中と述べた。
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed, 2005年7月1日	米国農務省(USDA)はBSE発症ウシ生産元がテキサス州南東部であると公表。狂牛病検査陽性となったウシはテキサス州南東部が生産元であると、このウシの配送を担当したペットフード会社所有者が2005年6月30日公表した。
2005/8/12	50376	旭化成ファーマ株式会社	チソキナーゼ	チソキナーゼ	ヒト胎児肺細胞	米国	有効成分	無	無	無			
2005/8/12	50377	旭化成ファーマ株式会社	チソキナーゼ	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
2005/8/12	50378	旭化成ファーマ株式会社	チソキナーゼ	ウシ血清	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/8/12	50379	旭化成ファーマ株式会社	チソキナーゼ	ブタバプトン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
2005/8/12	50380	旭化成ファーマ株式会社	チソキナーゼ	抗チソキナーゼモノクローナル抗体	マウスミエロマ細胞及びマウス抗チソキナーゼ抗体産生脾臓細胞から作成したハイブリドーマ	米国	製造工程	無	無	無			
2005/8/12	50381	株式会社第一ラジオアイソトープ研究所	ヨ化人血清アルブミン	ヨ化人血清アルブミン	ヒト血液	日本、米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。
											デング熱	Nephrology Dialysis Transplantation 2005;20(2):447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。
											鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
											HTLV	Reuters News 2005年2月26日	今までヒトでは感染が確認されていなかった2種類のTリンパ球向性ウイルス(HTLV-3, HTLV-4)が初めて人から分離された。
											マールブルグ病	WHO /CSR 2005年3月31日-4月22日	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
2005/8/17	50382	興和株式会社	チソキナーゼ	ウシの血清	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
2005/8/17	50383	興和株式会社	チソキナーゼ	チソキナーゼ	ヒト胎児の肺に由来する正常二倍体繊維芽細胞	米国	有効成分	無	無	無			
2005/8/17	50384	興和株式会社	チソキナーゼ	人血清アルブミン	ヒト血清	日本	添加物	無	無	無			
2005/8/17	50385	興和株式会社	チソキナーゼ	ペプトン	ブタの胃	米国	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/8/17	50386	興和株式会社	チソキナーゼ	抗チソキナーゼモノクローナル抗体	マウスミエロマ細胞及びマウス抗チソキナーゼ抗体産生脾臓細胞から作成したハイブリドーマ	米国	製造工程	無	無	無			
2005/8/23	50387	三共エール	ダルテパリンナトリウム	血液凝固阻止剤	豚小腸	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
2005/8/19	50388	麒麟麦酒株式会社	エポエチナルファ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	アメリカ合衆国	製造工程	有	無	無	サルモネラ	ProMED情報(詳細) 2005.5.17	2004年ミネソタ州保健局公衆衛生研究所は、ミネソタ州のペット卸売り業者が保有する病気のハムスターからサルモネラ(Salmonella enterica 血清型Typhimurium)が分離されたことを米国厚生省疾病管理・予防センター(CDC)に報告した。この報告は今回の流行に関連して初めて同定されたヒト2症例について記載し複数のペット販売店で購入したハムスターを含むげっ歯類との接触に関連した複数の州におけるネズミチフス菌感染ヒト患者調査を要約し、ペットげっ歯類から飼い主への感染伝播の低減に着目している。また、この報告はペットげっ歯類に関連したはじめてのサルモネラ症流行の文書である。この所見から、ペットげっ歯類の取り扱いが特に小児の健康上のリスクとなる可能性を示している。公衆衛生関係者は、ペットげっ歯類がサルモネラ症の感染源となる可能性があることを考慮すべきである。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											サルモネラ	ProMED情報(詳細) 2005.6.1	<p>CDCによる2005年5月にマサチューセッツ州、ロードアイランド州で発生した臓器移植に伴うリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染死亡患者事例に関する調査要約、暴露リスクおよび感染予防情報。</p> <p>2005年5月3日、CDCは共通のドナーから臓器移植を受けた患者4例における重症疾患の報告を受けた。その後、4例のレシピエントはリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)に感染していたことが明らかとなった。調査の結果、感染源としてドナー宅で飼育されていた感染ハムスターの可能性があることが示唆された。2005年4月、ロードアイランドの女性が脳死した際(徹底的な評価により感染症は示唆されなかった)、女性の家族が臓器提供に同意し、肝臓、肺、腎臓、角膜および皮膚が提供された。移植後3週間以内に、レシピエント4例(肝臓1、肺1、腎臓2)が肝機能・血液凝固異常になり、移植臓器が機能不全になった。4例中3例が、移植後23~27日後に死亡した。4例目(腎移植を受けたレシピエント)は生存している。4例の組織病理学的所見は様々であるが、死亡3例では肝細胞壊死が共通していた。角膜レシピエント(2例)は無症候で皮膚は移植されなかった。調査によりLCMV感染が判明したため、生存している腎臓レシピエントは治療により、臨床的に改善した</p>
2005/8/19	50389	麒麟麦酒株式会社	エポエチナルファ (遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	アメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ウシ臙ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED情報(詳細) 2005.5.11 (国際獣疫事務局(OIE) Disease Information Vol.18-No.17 2005.4.29)	<p>緊急報告の理由: 流行終息宣言地域におけるOIEリスト掲載疾患の再発生</p> <p>起因病原体の正確な同定—水胞性口炎ウイルスNew Jersey型</p> <p>感染の初回確定日—2005年4月27日感染の発生日—2005年4月19日</p> <p>アウトブレイクの詳細—場所: ニューメキシコ州Grant郡Mule Creekの農場。ウマ: 疑い6例、発症2例。ウシ: 疑い110例。感染群の概要—ウマ6頭は敷地内で飼育されており、ウシの放牧のための労働を行っていた。ウシ(雌牛、仔牛および雄牛)の年齢構成は幅広い。アウトブレイクの原因/感染源—不明あるいは未確定。</p>
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED情報(詳細) 2005.7.4 (USDA記者発表 2005.6.29)	<p>米国農務省(USDA)主任獣医官John Clifford氏による声明。2005年6月第4週、BSE検査陽性と同定された動物が飼育されていた個体集団(群)がDNA検査により同定された。飼い主から当局が入手した情報に基づいて、このウシはテキサス州内で飼育されている集団で生育し、年齢が約12才前後であったことが確認された。問題のウシは、テキサス州のペットフード工場へ送られ、到着時に抜き取り検査検体として選択された。</p>

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED情報(詳細) 2005.7.4 (OIEウェブサイト、 2005.6.28)	2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが、2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な個体として、問題のウシはヒトの食糧連鎖からは除外されている。死骸は焼却処分された。感染源は不明である。感染したウシは、米政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始した。
2005/8/19	50390	麒麟麦酒株式会社	エポエチンアルファ (遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓由来トリプシン	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザウイルス	ProMED情報(詳細) 2005.4.18	ジャワ島東部のAirlangga大学のNow C A Nidom(博士)は、現地のブタから採取した咽頭拭い液と血液検体からH5N1型ウイルスを検出した。ブタはヒトのインフルエンザウイルスも鳥インフルエンザウイルスにも感染するため、研究者らはブタがヒトでの汎流行インフルエンザウイルス株への変異を促す「搅拌槽」の役割を持つのではと危惧している。New Scientist誌は、米国内の研究者による予備的な研究結果から、ブタ同志ではH5N1型ウイルスを感染伝播しないことが示唆されたという情報を入手している。
											鳥インフルエンザウイルス	ProMED情報(詳細) 2005.5.23	2005年4月末近くにカリマンタン島East Kalimantan州Samarinda地域Sidomulyaにおいて最近30羽のニワトリが死亡しているのが発見された。Java島東部の大学研究者がSurabayaのブタ1頭の咽頭拭い液と血液検体からRT-PCR法でH5N1型ウイルスを検出した。不活化された単離RNAは東京大学に送付され、遺伝子配列が解析された。その結果このウイルスは高病原性を有し、家畜から分離された鳥インフルエンザウイルスと相同であった。分離されたウイルスの血液凝集素(HA)遺伝子配列は98%以上インドネシア産感染ニワトリやウズラから採取された検体と相同であった。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											鳥インフルエンザウイルス	ProMED情報(詳細) 2005.5.23	インドネシアの研究者らがジャワ島のブタからトリインフルエンザ株を発見し、このウイルスがより容易にヒトに感染伝播する可能性の懸念が高まったと政府と科学者らが2005年5月14日述べた。この発見をした科学者らはブタから検出されたウイルスをH5N1型であると同定した。検査したブタ20頭中10頭からH5N1型が発見された。これらのブタは2004年鳥インフルエンザ流行の発生したJava島の養鶏場から100ヤードの距離で飼育されていたが、なんら臨床症状を発症していなかった。
											鳥インフルエンザウイルス	ProMED情報(詳細) 2005.6.6	Banten州Tangerangにおいて調査3件が実施され、合計187検体が採取された。第1回目の調査が2005年2月23日にLegokのBabat村で実施され、鼻腔拭い液10件中5件が鳥インフルエンザ陽性となり、血清型はH5N1と同定された。第2回目の調査は2005年4月14日にPanonganのRancaiyuh村で実施され、5か月齢以上のブタ31頭から採取された鼻腔拭い液10件中6件がH5N1型鳥インフルエンザ陽性であった。第3回目の調査はLegokのBabat村で実施され、1歳以上のブタ6頭から採取された鼻腔拭い液6件中1件がH5N1型鳥インフルエンザ陽性であった。鳥インフルエンザの臨床的徴候を示したブタはいなかった。
2005/8/23	50391	持田製薬株式会社		ヘパリンカルシウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
2005/8/25	50392	日本製薬株式会社	加熱人血漿たん白 人血清アルブミン (20%) 人血清アルブミン (25%) 乾燥ポリエチレングリ コール処理人免疫グ ロブリン トロンビン 乾燥濃縮人アンチト ロンビンⅢ 人免疫グロブリン 乾燥人血液凝固第Ⅹ 因子複合体	ヘパリン	ブタ腸粘膜	ブラジル	製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/8/25	50393	ZLBベーリング株式会社	人C1-インアクチベーター	人C1-インアクチベーター	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとcJDIに注意しなくてはならない。
											人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について。
											パルボウイルス	Transfusion 2005;45(6):1011-19	血液製剤によるヒトパルボウイルスB19の潜在的感染に対し製造業者はハイタイターのミニプールの核酸及び免疫学的スクリーニングを導入している。今回の報告段階で導入していれば感染が引き起こされなかった可能性がある。
2005/8/25	50394	ZLBベーリング株式会社	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	人畜共通感染症	International J of hematology 2004;80:301-5	米国において、献血の各種の安全対策に関する総説論文。献血の安全対策を実施した結果、HIVとHCV感染は減少しているが、新興感染症であるシャーガス病、バベシア症、マラリア、WNVとcJDIに注意しなくてはならない。
											人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について。
											パルボウイルス	Transfusion 2005;45(6):1011-19	血液製剤によるヒトパルボウイルスB19の潜在的感染に対し製造業者はハイタイターのミニプールの核酸及び免疫学的スクリーニングを導入している。今回の報告段階で導入していれば感染が引き起こされなかった可能性がある。
2005/8/26	50395	シェリング・プラウ株式会社	インターフェロナルファ-2b(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	有	デング熱	ProMED20050106-0030 Jan. 12, 2005	2004年の最初の9か月間で、8237名がデング熱に、360名がデング出血熱に罹患した。
											狂犬病	CDR WEEKLYVol. 15, No. 9Mar. 3, 2005	ドイツの臓器移植財団は、2004年12月下旬に死亡したドナーから臓器を移植された患者6例中3例が狂犬病の可能性例であることを公表した。
											狂犬病	AABB WeeklyReportVol. 11, No. 10 Mar. 25, 2005	患者が臓器を移植されたレシピエント3名は狂犬病に関連した症状を診断され死亡し、肺を移植されたレシピエント1名も手術中に死亡した。
											狂犬病	ProMED: 20050408-0020 Apr. 7, 2005	狂犬病ウイルスに感染した女性から肝臓と腎臓の移植を受けたドイツ人が狂犬病で死亡した。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											マラリア	CDC/MMWR54(15); 383-384Apr. 22, 2005	グアテマラ共和国から米国に移住した母親から生まれた生後7週間の新生児(男)における先天性マラリアの症例報告。
											ウエストナイルウイルス	Department ofHealth./Press releases Mar. 1, 2005	米国において輸血および臓器移植による西ナイルウイルス症例数例が報告されている。
											デング熱	ProMED:20050516- 0070 2005/5/12	2005年これまでに12名が死亡しており、昨年の死亡総数の約2倍にあると保健当局が2005年5月12日公表した。
											ウイルス感染	ProMED:20050520- 0020 2005/5/18	レユニオン島(モーリシャス島から230km)では、チクングンヤウイルス病の最初の患者は先週初めに報告され、その後患者数が急激に増えている。
											デング熱	ProMED:20050520- 0070 2005/5/18	North Cotabato州でデング熱患者の急増が見られた。
											マラリア	CDC/MMWR54(SS02); 25-39Jun. 3, 2005	米国で感染したマラリア症例10例のうち1例が輸血関連と考えられる。
											デング熱	ProMED:20050530- 0010 2005/5/21	タイにおける死亡患者総数は16名に増加した。またプーケット島において、2004年以降デング熱患者が2倍に増加したことが判明した。
											デング熱	ProMED20050118-0030 Jan. 14, 2005	同国保健相は、2004年12月には、デング熱患者週平均数が450名から約1000名へと倍増したと発表した。
											デング熱	CDC/MMWR54(22); 556-558Jun. 10, 2005	77例の急性デング感染症と検査確定されたうち8例が1次感染、12例が2次感染と診断された。
											デング熱	ProMED:20050603- 0050 Jun. 1, 2005	フィリピンではデング熱患者は昨年と比べ増加率は298%となる。またエクアドルでは、デング熱患者数が増加中であり、デング熱患者の大部分は小児である。
											C型肝炎	共同通信 2005/5/30	HCVの混入した血液が日赤の高感度検査をすり抜けて、2004年4月に80代女性患者に輸血(赤血球輸血)されていたことが報告された。
											デング熱	ProMED:20050613- 0010 Jun. 6, 2005	フィリピン保健省は、2005年のデング熱の患者数は3倍に増加したと報告した。ベトナムの地方保健当局は、死亡患者3名を含む6,700名のデング熱患者を報告している。

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											デング熱	ProMED:20050617-0050 Jun. 15, 2005	コスタリカで、デング熱患者が急増している、とコスタリカの保健当局が警告した。今年の初めから4400名以上の患者が報告され、2004年の51%増である。
											デング熱	ProMED:20050624-0030 Jun. 22, 2005	エルサルバドルでは、デング熱患者数は1278名に増加した。イエメンShabwa地域では、デング熱患者数が増加している。
											B型肝炎	共同通信 Dec. 17, 2004	B型肝炎の低濃度キャリアからの輸血で検査をすり抜け3人が感染した。
											E型肝炎	ProMED 2004 Dec:74(4):563-572	1979年にHEVに感染した1名は、ウイルス血症になる21日前に2Uの血液を輸血していたことを確認した。
											デング熱	ProMED 20050131-0030 Jan. 29, 2005	生体腎移植後にドナーからレシピエントにデングウイルスの感染伝播の可能性があり、結果として劇症のデング出血熱に至った症例の報告。
											デング熱	ProMED 20050210-0020 Feb. 8, 2005	マレーシア当局は、クアラルンプールの2005年1月最終週のデング熱患者数が336名に増加と報告。一方シンガポール当局は、2004年全体でデング患者9459名を記録した。
											ブドウ球菌感染	CDC/MMWR54(07):168-170Feb. 25, 2005	2004年に発生した血小板輸血に関連した致死的な敗血症2症例についての概要などに関する報告。
											HTLV	CDR WEEKLYVol. 15, No. 8Feb. 24, 2005	2004年に英イングランドおよびウェールズにおいてHTLV感染症新規診断が83例あった。
											狂犬病	ProMED:20050219-0030 Feb. 18, 2005	ドイツの臓器移植レシピエント3名がおそらく狂犬病に感染していたと思われる女性から死体臓器提供を受けて狂犬病に感染した。
2005/8/26	50396	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン	初代腎臓培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
2005/8/26	50397	財団法人 化学及血清療法研究所	感想細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン 組織培養不活化狂犬病ワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程 添加物・ 製造工程	無	無	無			

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
2005/8/26	50398	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン 組織培養不活化狂犬病ワクチン	筋アデニル酸	ウマ肉	アメリカ	製造工程添加物・製造工程	無	無	無			
2005/8/26	50399	三共株式会社	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	デオキシリボヌクレアーゼ	牛の膀胱	ニュージーランド	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Press Release 2005年2月2日	2005年1月28日、BSEに対するOIE委託研究所である英国の獣医学研究所を含むEUの専門研究所からのフランスのヤギにおけるBSE初症例について。
2005/8/26	50400	三共株式会社	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	フィブリノリジン	牛の血漿	ニュージーランド	有効成分	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Press Release 2005年2月2日	2005年1月28日、BSEに対するOIE委託研究所である英国の獣医学研究所を含むEUの専門研究所からのフランスのヤギにおけるBSE初症例について。
2005/8/30	50401	大日本製薬株式会社	コンドロイチン硫酸鉄	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨(気管)	米国、メキシコ	添加物	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 緊急情報 健康局疾病対策課国内における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の発生について(2005.2.4)。変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に係る感染経路について(2005.3.7)	日本国内で初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)が確認された。症例は男性で平成13年に40歳代で発症し、平成16年死亡。平成元年頃、約1か月間の渡英・仏歴あり。Prion蛋白遺伝子に変異がみられず、vCJDに特徴的な病理所見およびウエスタンブロットの所見からvCJDと診断(2005.2.4)。感染経路は、輸血歴等無く、渡航中のBSE牛の経口摂取の可能性が示唆される(2005.3.7)
											クロイツフェルト・ヤコブ病	USDA News Release. No.0232.Jun 24, 2005 USDA ANNOUNCES BSE TEST RESULTS AND NEW BSE CONFIRMATORY TESTING PROTOCOL	米国テキサス州生まれで、2004年11月にアメリカ農務省(USDA)がBSE疑陽性と判定したウシの試料を英国Weybridge研究所が検査の結果、3頭のうち1頭をBSEと判定。以後、USDAはELISA試験が陽性の場合、二次検査としてWestern blotあるいは免疫組織化学的検査を実施し、少なくとも一方が陽性の場合にはBSEと判定することに検査法を改正
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed-mailArchive Number:20050128.0312[3]Published Date:28-JAN-2005	フランスにおいて2002年来BSE感染の疑われていたヤギは、その後英国とフランスとの共同研究により確認試験を実施中であった。マウスを用いたbioassay試験の結果、当該疾病は世界初のヤギへのBSE感染例であることが確認された(2005年1月28日発表)

受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
											クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED: 20050126-0070: 2005/01/19 OIE Disease Information Vol.18-No.3	2005年、カナダのアルバータ州Red Deer地区の牧場で生産・飼育されたウシ1頭にBSEが確認された。罹患ウシは雌のCharolais種で、1998年3月生まれの81カ月齢であった。同時出生群として、25頭が生産牧場で、別の個体が他の7カ所の牧場でそれぞれ飼育中。当局は関連性を追跡中である。カナダでの飼料規制は1997年
2005/8/30	50402	川崎三鷹製薬株式会社	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			